

令和5年度 大阪府立狭山高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1. 日 時 令和5年6月28日(水)15時30分～16時45分

2. 場 所 本校2階 会議室

3. 学校協議会委員一覧

湯峯 裕	桃山学院教育大学 教授
堀内 一憲	大阪狭山市狭山中学校 校長
染川 佳紀	立志館ゼミナール
小松 茂美	大阪狭山市立公民館
トランティ美佳	大阪府国際交流財団
池田 正美	狭山高校PTA 会長 (敬称略・順不同)

・学校側出席者

松永 淳子(校長)	井迫洋一郎(教頭)	野中 輝己(事務長)
池田 輝政(首席兼1年学年主任)	大西 弘記(首席)	
小林 友宏(3年学年主任)	浦上武次郎(2年学年主任)	
岡本 宏之(教務部部長)	影山 孝雄(進路指導部部長)欠席	
松村 毅(生徒指導部部長)	古川 尚幸(生徒会部部長)	
船坂 寛之(保健部部長)	磯田 圭子(人権教育推進委員長)	

＊ 令和5年度学校経営計画について

・教育方針について、「自尊感情を育み、自主性を伸ばす」部分における生徒への評価等についてどのように図っていくつもりか。[委員]

→学校教育自己診断等をひとつの基準としてみているが、委員の先生からのアドバイスも求めている。[学校出席者]

→生徒の帰属意識に表れると考えられる、遅刻数や授業態度を見てもらいたい。[委員]

・生徒の遅刻数は現在どのような状況となっているか。[委員]

→コロナ禍の影響もあり、増加傾向。学年ごとの特徴もなく遅刻数は変わらない。指導もおこなっているがコロナ禍で無理をさせることは難しい。[学校出席者]

・ヤングケアラーの実態について説明を求められた[委員]

→大阪府全体で調査しており、昨年度より学校全体で取り組んでいる。本年度は教育相談支援委員会として定期的に活動している。[学校出席者]

＊ 令和 4 年度進路結果について

- ・指定校指向が高いのが現状。狭山メソッドを実践し、一般入試に頑張ることができる生徒を拡充していく。[学校出席者]
- 学力があるにも関わらず早く決めたい指向が惜しい。[委員]
- 近畿大等に多く進む中で卒業後の進路や学費等の知識も生徒に指導してほしい。[委員]
- 近年は近畿大の入学志向の高まり、関西大関学大については若干の低下が見られる。生徒には早くからの進学に対する意識付けをしていくことが必要。[委員]

＊ スクールポリシーについて

- ・グローバルセンス、ローカルセンスを高めるための具体的な施策は何か。[委員]
- 総合的な探究の時間において地域連携、国際教育を実践している。[学校出席者]
- 具体的なキャリア教育を入れてもらえたらと考える。[委員]

＊ 将来の夢を描くという部分について

- 個人がどのように生きていくかを考えるためのカリキュラムの設定が必要。[委員]
- いまの就職はオールマイティを求められて大変だからこそ自分ができることを探すチャンスを持たせてほしい。[委員]
- 大学のネームバリューではなく本当に学びたいものを探すための情報収集の機会を生徒に与えてほしい。[委員]

＊ その他

- ・L—GIGA について
- ICT 機器を活用しなければ出来ない学びの創出を期待したい。[委員]

- ・学校ごとの定期考査の対策や問題の回収は学習塾等で実施しているのか。[学校出席者]
- サービスの一環として実施しているところもある。[委員]
- 大阪市立中学校は開示するようになっている。[委員]
- 考査の内容が以前の問題と重複しないよう中学校は常に対応している。[委員]

